（基盤科目）

科 目 名	研究方法特別演習Ⅰ 英語名：Special Seminar on Study Method Ⅰ	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	芳川　玲子	

【授業概要】

博士論文は複数のエビデンスに基づいた研究の積み重ねである。そのため、研究に合った方法を知り、かつ選ぶ必要がある。本科目では、必修科目で学ぶ研究方法のうち、特に質的研究の代表的なインタビュー調査とその分析に焦点をあてて学修をすすめていく。授業の前半は、研究デザインと研究手法の選び方を学修し、科目の中間回と後半では、質的研究の手法を具体的に学ぶ。また、質的研究の手法がいろいろある中、本科目は、専門家など外部の立場や、フィールドでの関わりがさほど強くない対象へのインタビューの研究を想定して、その分析方法として、KJ 法、M-GTA、TEA,アクションリサーチを中心に解説する。

博士論文を書くことは、テーマを決め、研究デザインを設計し、手法を選択し、実践を行い、さらにテーマ設定の原点に立ち返っての省察の繰り返しである。各自が自分の進捗状況を常に認知し把握することが大切である。

【キーワード】

質的研究、KJ 法、、M-GTA、TEA（複線径路等至性アプローチ）、アクションリサーチ

【授業の到達目標】

・量的研究と質的研究の違いを理解できる
・質的研究の代表的な研究手法を理解できる
・質的な研究の複数の手法の中から、自身の研究に適した手法を選ぶことができる
・博士論文の研究手法の部分の章にどのような手法が適するかについて記述ができる素地を持つことができる

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】　スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内　　容
1	ガイダンス：本演習のねらい・進め方【SC】
2	量的研究法と質的研究法違い
3	質的研究法におけるデータ収集：インタビュー方法（基礎）
4	質的研究法におけるデータ収集：インタビュー方法（応用）
5	質的研究法の発送と比較：KJ 法、M-GTA、TEA、アクションリサーチ【SC】
6	質的研究法におけるデータ分析①：KJ 法の発想
7	質的研究法におけるデータ分析②：KJ 法の実際
8	質的研究法におけるデータ分析③：M-GTA の発想
9	質的研究法におけるデータ分析④：M-GTA の実際
10	KJ 法と M-GTA の実践に関する中間まとめ【SC】
11	質的研究法におけるデータ分析⑤：TEA の発想

12	質的研究法におけるデータ分析⑥：TEA の実際
13	質的研究法におけるデータ分析⑦：アクションリサーチの発想
14	質的研究法におけるデータ分析⑧：アクションリサーチの実際
15	総括【SC】

試験

【履修にあたっての準備・履修上の注意点】

・研究方法に関する何らかの授業を修士課程・専門職学位課程で授業していることが望ましい
・履修において、主に質的研究を扱うが、学生の研究内容によっては、学修内容を多少変更することもある。履修の順序については、学期はじめのスクーリングで相談を行う。
・本科目においては、指定されたテキストを読み、理解をした上で、研究の実践を行うことが修得の近道である。テキストは初回スクーリングまで読むべき基礎文献である。それ以外は、初回のスクーリング時に指示する。

【スクーリングでの学修内容】

スクーリングは学生の状況に合わせて 4 回程度実施し、合計 8 時間行う。
・学修の初期のスクーリングは、科目のねらいや学修の概要を知り、この科目を通して何を目指すかを学生と教員が相互に確認するために行う。このスクーリングでは、各学生がすでに学んで身につけていることは何かを把握するため、学生は事前に修士課程で学んできたことを説明できるように準備を行い、スクーリングに臨むことが期待される。
・学修途中の 2 回の SC は研究手法に関するものになる。各手法の理解と定着の確認がねらいである。
・学修の最後に、まとめとしてのスクーリングを行う。ここでは、各自が入学の研究計画をさらに精緻化した研究デザインに基づく計画書を事前に準備し、スクーリングにおいて提示することが求められる。

【評価方法】

授業の参加意欲および自身で学んだ研究方法を含むプレゼンテーション（合計 40%）、研究方法・計画等に関するレポート・科目修得試験（合計 60%）で評価する

【教科書】

・中蔦洋（2015）『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院 ISBN-13:978-4260024051
その他は授業時に提示する

【参考図書】

・サトウタツヤ他（2019）『質的研究法マッピング』新曜社　ISBN-13:978-4788516472
・山浦晴男（2012）『質的統合法入門: 考え方と手順』医学書院　ISBN-13:978-4260015059
・木下康仁（2003）『修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践　質的研究への誘い』弘文堂
・木下康仁（2020）『定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院 ISBN-13:978-4260042840
・サトウタツヤ他（2023）『カタログ TEA(複線径路等至性アプローチ)ー 図で響きあう』新曜社 ISBN-13:978-4788517974
・筒井真優美他（2010）『アクションリサーチ入門―看護研究の新たなステージへ』ライフサポート社　ISBN-13:978-4904084205

【教員メッセージ】

研究はテーマを設定したときの思いが最も大切である。実践段階では常に原点に立ち戻って確認しながら進むことが大切である。
本科目では複数の研究手法を学ぶが、結果として、その方法を使う場合でも、使わない場合でも、自身の選ぶ研究方法の強みと弱みを知り、最終的に、博士論文の方法選択や記述において役にたつと思われる。

【備考】

特記事項なし